

熊本県立
1996.11
大学学報

第8号

春

秋

shunjūsai

彩



春秋彩とは
「万葉集」の額田王の春秋を論じた歌の詞書「春山の
万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。
「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を
彩る学園の四季を表している。

モク拾いとボイ捨て

熊本県立大学長 手島 孝



学長 手島 孝

第二次大戦の末期から敗戦の数年後まで、あらゆる生活物資の極端な払底で、もちろんタバコも貴重品でした。成人ひとり当り、ごく僅かな分量の配給制だったのです。

当時ロー・ティーンだった私が、その

後一時おとなへの“通過儀礼”として口にしたことはありましたが、結局喫煙者にはならなかったのは、そのころ周囲のタバコ喫みたちの意地汚さ加減に、ほとほと呆れ果てたからです。

自分のだけでなく人の喫みさしまで、灰皿から火鉢(懐かしの暖房器具よ!)から掻き集め、中身をほぐし、あり合わせの紙切れ(コンサイス英和辞典のインディアン・ペーパーを千切って使うのが最適とされていた!)で手巻きして、吸う。

モク拾いという商売までありました。道や広場を、目を灰皿ならぬ皿にして

タバコの吸い殻を探して廻る。沢山集まったら、あとは上記の手順で商品化するというわけ。

かくて、こと吸い殻に関する限り、屋外はきれいさっぱりとしていました。

五十年後、かつて想像もつかなかった豊かな社会となった今、道も広場も吸い殻捨て場と化した観があります。車の窓からボイ捨て(カー灰皿にたまったのをごっそり投げ捨てる豪の者?もいる!)。キャンパスで一服したあと、垂れ流しよろしくのボイ捨て。

さて、古えの聖賢は、衣食足って礼節を知ると教えたのですが……。

学究の成果が実る秋。 一人一人、大きな実をつけて欲しい。

平成8年度熊本県立大学 オープンキャンパスについて

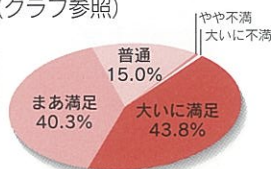
去る平成8年7月28日、本学において平成8年度熊本県立大学オープンキャンパスが開催され、昨年度より100人ほど多い約800人の受験生や保護者・高校教員等が参加した。参加者は学部ごとに分かれて、学科紹介、入試・就職関係事項の説明等を受けたり、大学広報ビデオの視聴を行った。またそれらに加えて学科によっては、模擬授業を受けたり、在学生からの学生生活についての話を聞いたりと盛り沢



山の内容であった。また、希望者は教員等の引率で大学内の施設を見学し、暑い中の開催であったが参加者の熱心なまなざしが印象的であった。

アンケート調査の結果をみても大部分の参加者にとって満足のものであったようである。(グラフ参照)

アンケート 結果(全体)



「熊本県立大学の現状と課題」 (自己点検・評価報告書) 刊行、公表される

熊本県立大学の現状と課題

1998

平成6年度に設置された本学自己点検・評価委員会(委員長:手島孝学長)では、委員会を中心にして全学的な教育研究活動、校内組織等の現状を客観的に把握し、大学・学部などの理念・目標との関連において現在の状況を本学教職員によって自ら点検・評価を行い、改善されるべき点を明らかにするために鋭意作業を行っている。

その点検成果として昨年刊行された本学教員の研究業績集「熊本県立大学研究者総覧」に続き、今回本学の現状等をまとめた「熊本県立大学の現状と課題」が刊行、公表された。内容は、大学の教育研究環境、各学部等の教育研究活動、学生生活、大学の管理・運営等についてそれぞれ現状、問題点を分析し、改善点を掲載している。

当刊行物は、学内では図書館や各学部資料室、各教員研究室などで閲覧できる。また、全国の大学や県内の高校、県・市

町村などの行政機関、公立図書館などにも配布された。(A4判、293ページ)

大学院入試について

平成9年度の大学院学生募集要項は、本年6月に発表され、現在教務課において配布中である。募集人員は、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻とも、前期募集3人、後期募集2人となっている。前期募集については、試験は10月16日(水)に実施され、入学予定者は日本語日本文学専攻2人、英語英米文学専攻3人であった。

後期募集については、出願期間は平成9年1月20日(月)～1月24日(金)、試験は2月17日(月)となっている。詳しくは教務課まで。

就職活動について～学生課から

大学の銀杏並木も色付きはじめ、秋本番を迎えた。就職活動も終盤に入り、今年就職戦線も長期化の様相を呈している。

現在のところ就職内定率は約50%。就職希望者の半分が決定しており、昨年同時期と比較してほぼ同数といったところ。ここまでは、昨年に比べ生活経営学科の内定率が好調で、幅広い業種に内定している。その理由の一端は、生活経営学科の学生が就職資料室を訪ねる頻度が高く、それだけ求人情報を得る機会が多かったことがあげられる。

また、今年も昨年同様、民間企業では厳選して少数を採用する傾向にあり、特定の学生に内定が集中している。そのため、内定を辞退した分の追加求人が現在大学へ届いている。

公務員では、熊本県と熊本市の採用試験が同日に行われたこともあり、競争倍率はやや低下したものの依然厳しい状況にある。今年も、女子学生のみということもあってか熊本市を受験した学生が圧倒的に多かった。

まだ内定していない4年生は、就職活動が長期化し、体力面・精神面共に辛い日々を送つ

ていることだと思いが一人で思い悩むことなく、気軽に就職資料室を訪ねてほしい。皆さんの最後の一踏ん張りに期待する。

さて、3年生もいよいよ就職活動を始める時期になった。就職ガイダンスも終わり、就職活動という長いレースが内定を獲得するまで続く。就職活動は、自分探しの旅。人生の中で、この時期程自分と真剣に向かい合う時間はないかもしれない。まずは、自分自身をよく理解することから“いい就職”のための第一歩を始めてほしい。

H8.3月卒業生進路状況

	文学部			生活科学部				総計	前年度
	国文	英文	計	食栄	環境	経営	計		
卒業生総数	48人	47人	95人	41人	43人	40人	124人	219人	206人
1 就職希望者数	42人	40人	82人	35人	37人	37人	109人	191人	185人
就職決定者数	32人	29人	61人	35人	34人	29人	98人	159人	138人
一時的な仕事	2人	0人	2人	0人	0人	1人	1人	3人	12人
就職未定者数	8人	11人	19人	0人	3人	7人	10人	29人	35人
就職率	76.19%	72.5%	74.39%	100%	91.89%	78.38%	89.91%	83.25%	74.6%
2 進学希望者数	1人	2人	3人	5人	3人	3人	11人	14人	10人
進学決定者数	0人	1人	1人	5人	2人	3人	10人	11人	9人
3 無業者	0人	1人	1人	1人	0人	0人	1人	2人	5人
4 その他	5人	4人	9人	0人	3人	0人	3人	12人	6人

地域講演会について

平成8年度熊本県立大学公開講座地域講演会が県内3ヶ所で実施された。地域講演会は、県民の生涯学習の意欲に応えるため、県内の各地域に出向き、地域の方々を対象に講演を行うものである。昭和59年に始まり、今年で13年目を迎える。平成8年度は、7月に球磨郡錦町及び水俣市、9月に荒尾市で実施した。講演テ

ーマは、法律、インターネット、食物栄養、男女共同参画型社会や日本とアジアの近代化について等、広い範囲にわたっている。

どの会場の受講者も熱心に参加し、講演

後の質問も活発だった。各会場の受講者数は、錦町が92人、水俣市が181人、荒尾

熊本県立大学地域講演会



市が199人であった。毎回、講演終了後に行うアンケート調査によると、受講者の評判も良い。本講演会は

生涯学習の事業として県民の支持を得ており、今後に対する期待も大きい。

人事異動

氏名 ①職名 ②専門 ③発生日

採用

■ 外国語教育センター

Wahlers, Marijke ①国際交流員 ②独語 ③7月22日

Wucher, Alexandra ①国際交流員 ②仏語 ③7月29日

昇任

■ 生活科学部

ふくおか よしゆき

福岡 義之 ①助教 ②健康科学 ③10月1日

後援会海外留学・研修助成金交付

熊本県立大学後援会では、平成7年度から国際交流の推進を目的として本学学生が海外で留学又は研修をする場合に助成金を交付している。今年は、100万円の予算内で6ヶ月以上海外留学・研修する者には10万円、6ヶ月未満の者には5万円の助成金が交付された。応募者は、日本語日本文学科2人、英語英米文字科3人、生活環境学科1人、総合管理学科

6人の計12人で、英会話学習等のため米・英・豪・中国へ留学・研修する学生がほとんどであった。

学術研究活動

本学では教員の学術研究の振興を図るとともに地域社会に積極的に貢献するための研究を奨励、推進するために独自の学術振興制度として地域貢献研究費を設けている。

(1)第1号該当：地域振興支援研究

(2)第2号該当：学術高度化研究

(3)第3号該当：その他研究事業の趣旨に添った研究等、の3種類の研究を対象としており、そのための経費として

2,600万円を予算に計上し、31件交付決定している。また平成8年度は国の制度である科学研究費補助金5件700万円の交付を受けている。詳細は以下のとおり。

平成8年度
地域貢献
研究事業

所属	職名	氏名	研究課題	所属	職名	氏名	研究課題
(1)地域振興支援研究	生活科学部	教授 助手	亀山 春 松岡 勝子	生活科学部	教授	中島熙八郎	「農村型リゾート」に対する都市住民及び地元住民の評価に関する調査研究
	生活科学部	教授	太田 直一	総合管理学部	教授	米澤 和彦	熊本県下の地域づくりに関する総合的研究
	生活科学部	講師	白土 英樹	総合管理学部	教授	石橋 敏郎	熊本型高齢者福祉の転換期「公的介護保健制度導入か」市町村福祉政策に与える影響
	生活科学部	教授	大岡 敏昭	(1)計	7件 (昨年度6件)		

所属	職名	氏名	研究課題	所属	職名	氏名	研究課題
(2)学術高度化研究	文学部	教授	三木 悦三	生活科学部	助教授	深津 和彦	電解で発生する活性種による水溶性高分子の分解
	文学部	教授	竹原 崇雄	生活科学部	教授	飯尾 雅嘉	グルタチオン関連酵素に対するフラボノイドの影響
	文学部	助教授	山田 俊	生活科学部	助教授	鈴木 公	卵白蛋白質の血清脂質改善作用に関する研究
	文学部	助教授	稲川 順一	生活科学部	助教授	福岡 義之	低酸素環境下における運動時の呼吸調節に及ぼす化学受容器感受性の変化
	文学部	講師	福田嘉一郎	総合管理学部	教授	赤松 秀岳	F・C・v・サヴィニー(1779~1861)の自筆資料の研究
	文学部	助教授	星乃 治彦	(2)計	11件 (昨年度6件)		

所属	職名	氏名	研究課題	所属	職名	氏名	研究課題
(3)出版助成 県からの 依頼研究・ リカレント 教育	文学部	教授	下瀬三千郎	生活科学部	助教授	堤 裕昭	魚類養殖場直下の海底に堆積した有機汚泥についての生物浄化の試み<水産研究センター依頼>
	総合管理学部	助教授	石森 久広	総合管理学部	教授	丹生谷 龍	民間企業資金企業体系改革についての最近の動向<人事委員会依頼>
	総合管理学部	助教授	森 美智代	総合管理学部	講師	木原佳奈子	市町村における福祉のネットワーク<社会援護課依頼>
	総合管理学部	講師	苗村 辰弥	総合管理学部	教授	立山 俊男	県産品のマーケティング戦略研究<政策企画課依頼>
	文学部	助教授	馬場 良二	総合管理学部	教授	野村 武	博物館における情報システム構築の一考察<文化企画課依頼>
	生活科学部	教授	中島熙八郎	(3)計	13件 (昨年度23件)		
	生活科学部	助教授	村上 良知	(1)(2)(3)計	31件 (昨年度35件)		
生活科学部	助教授	堤 裕昭	※ 県からの依頼研究 9件 (昨年度5件)				

平成8年度
科学研究
費補助金

所属	職名	氏名	研究課題	所属	職名	氏名	研究課題
生活科学部	教授	大岡 敏昭	都市独立住宅の配置・平面原理に関する計画的な研究	生活科学部	助教授	福岡 義之	正弦波運動負荷に対する心拍数の動特性と身体活動量との関連
生活科学部	助教授	堤 裕昭	化学合成による一次生産を利用する底生生物が沿岸域の有機汚泥中に生息する可能性	文学部	助教授	砂野 幸稔	セネガルにおけるウオロフ語使用の研究
文学部	助教授	山田 俊	唐代道教文献の「經」と「論」について	計	5件 (昨年度5件)		

サークル紹介

●野球部

熊本県立大学
野球部マネージャー
入枝 美紀
(総合管理学部3年)



全国大会に出場して

私たち県立大学野球部は、8月2日から香川県で行われた第13回全国軟式野球大会に出場した。大会出場に先立ち知事を表敬訪問し、大会出場の壮行会では多くの方からの激励を受けた。大会では一回戦で四国大学、二回戦で大阪経済法科大学を破り、そして三回戦で立命館大学との対戦を迎えた。

強豪チームを相手に、前半戦は苦し

い戦いになるだろうとの予想にも関わらず、優勢のうちに試合は展開。しかし、7回で味方エラーと相手タイムリーで同点に追いつかれた。8、9回チャンスはあったものの得点できず、一進一退の息詰まる攻防の末延長戦へ。

回は10回の裏、ピンチを迎える。ツーアウトランナー2、3塁。ピッチャーの投げたボールは、キャッチャーのミットをすり抜け、バックネットへ転がる。

試合終了。

私たちは、球場の外の木陰に集まった。固まったかのように動かず座ったままの選手。顔をかくして泣いている選手。そういった選手たちをみて、私ははじめて負けたことを実感した。くやしさと満足感、選手で

もない私たちにこういった気持ちを体験させてくれた選手たちに私は感謝している。

現在、野球部は11月に行われる西日本大会に向けて練習している。3年生にとっては最後の大会である。部の方針である「楽しむ野球」ができるよう、しっかり応援したいと思っている。

私たちの夢は大きく「全国制覇」だ。



知事表敬訪問時に、知事直筆の色紙を手に記念撮影

お知らせ

●大学歌の制定について

今般、本学では「熊本県立大学歌」を制定することになり、歌詞を広く公募したところ、学内はもとより、北は北海道、南は沖縄県から多数(10月30日現在162件)の応募があり、うれしい悲鳴を上げている。

今後は学内外の委員で構成する「歌詞選考委員会」で、21世紀に向かい、共学の総合大学にふさわしい、親しみのもてる歌詞を選考のうえ、詞のイ

メージにあった専門家に作曲を依頼し、来年の2月頃までには完成させる予定。

新しい大学歌のお披露目は、今のところ平成9年4月の入学式になるよう準備をすすめている。

どのような歌詞の、どのような曲調の大学歌が完成するか、お楽しみに。

●韓国・祥明大短期学生研修団来学

平成8年6月22日～7月1日までの10日間、姉妹提携を結んでいる韓国・祥明大短期から短期研修団

19人が来学しました。研修団の学生はホームステイしながら日本語の授業を受け、サークル活動の見学や阿蘇方面への1泊研修旅行など、本学学生との交流を深めました。



メッセージコーナー

教務課から

学生の皆さん掲示をみていますか。掲示は、休講や補講の他にも、時間割、教室の変更また試験や成績のことなど重要な情報があります。大学からのお知らせは、必ず掲示で行います。掲示をみていなかったために大切な情報を知らずに、不利益を被ることもあります。掲示は電子掲示板も紙の掲示も必ず見て下さい。

図書館から

CD-ROM用パソコン(NEC PC-9821 V20/M7 Model C2)が1台と、ページプリンター(Multi writer 1000 LW)が1台、1階の「利用者端末コーナー」に11月設置される予定です。CD-ROM用のソフトも順次購入する予定ですので、どうぞご利用ください。

学生課から

平成9年2月15日(土)～16日(日)に、アジア・ネットワーク・フォーラムが開催

されます。これはアジア地域から研究者を招聘し、講演会や討論会をととして広く県民のアジア地域に関する知識や理解を深めるとともに、アジア地域と本県とのネットワークづくりを推進し、今後の交流のあり方を探ることを目的として開催します。

平成8年度の基本テーマは「共存・協力・競争～アジアの中の熊本」で、第1分科会では「環境と持続可能な開発(予定)」、第2分科会では「地域経済の相互発展の可能性(予定)」について、アジア地域からの研究者を招聘し、講演会や討論会を開催します。皆さんの積極的参加を希望します。

熊本県立大学の主な行事
(H 8. 4 ~ 9. 3)

- 4月 10日 入学式
12日 授業開始
- 5月 2日 開学記念日
22日 重松氏名誉教授称号授与
- 6月 初旬 夏期講座申込受付 (~6月5日)
19日 入試概要公表
22日 祥明大学短期研修団来校 (~7月1日)
- 7月 1日 求人票揭示
11日 夏季休業 (~9月10日)
中旬 インカレ
26日 大学説明会 (教員向)
28日 オープンキャンパス (受験生向)
- 8月 7日 大学歌募集 (~10月31日)
19日 中高英語教員向夏期講座 (~23日)
- 9月 11日 授業再開
19日 (在学生) 前期試験 (~30日)
- 10月 1日 後期開始・公務員講座開講
16日 大学院 (前期) 試験
19日 就職ガイダンス
21日 第17回スポーツ教室 (~11月22日)
- 11月 9日 白垂祭 (~10日)
14日 県内企業との意見交換会
29日 アントレプレナーセミナー
- 12月 8日 特別選抜試験
24日 冬季休業 (~1月9日)
- 1月 10日 授業再開
17日 自宅学習 (センター試験準備)
30日 後期試験 (~2月12日)
- 2月 中旬 就職セミナー週間
15日 アジアネットワークフォーラム (~16日)
17日 私費外国人留学生、大学院 (後期) 試験
25日 前期入学試験
- 3月 12日 後期入学試験
15日 卒業式
25日 春季休業 (~4月8日)

